

岸和田市生活排水処理統廃合検討方針

現状整備状況&現計画



図1 処理区域図

現在の整備状況（平成29年末時点）

- 岸和田市の生活排水処理は、公共下水道の北部・中部処理区(流域)、磯ノ上処理区(単独)と牛滝処理区(特環)及び農業集落排水の大沢地区、塔原・相川地区で構成されている。
- 岸和田市の下水道は平成29年度末時点で、約2,780ha整備されており、整備率は約96%である。
- 磯ノ上処理区は全体計画で、将来的に北部処理区に統合されることとなっている。

現状の課題

- 当初計画に対して近年の人口減少が見込まれ、処理能力に余裕の発生が想定されており、今後必要となる改築事業費及び維持管理費を考慮すると、処理能力の集約について検討する必要がある。
- 農業集落排水大沢地区は平成29年10月22日の台風21号により処理場が被災し、汚水処理が出来ない状況となっており現在仮設処理施設で対応しているため、早急な対策が求められる。

今後の整備方針検討

- 計画目標年次(H52)における計画汚水量の算定のために将来人口の推定を行う。
- 流域関連公共下水道区域における国道170号線より山側の未整備区域(河合町・内畑町)の整備方針を検討する。
- 磯ノ上処理区、牛滝処理区、大沢地区、塔原・相川地区の既存処理区域における効率的な汚水処理の方針を検討する。

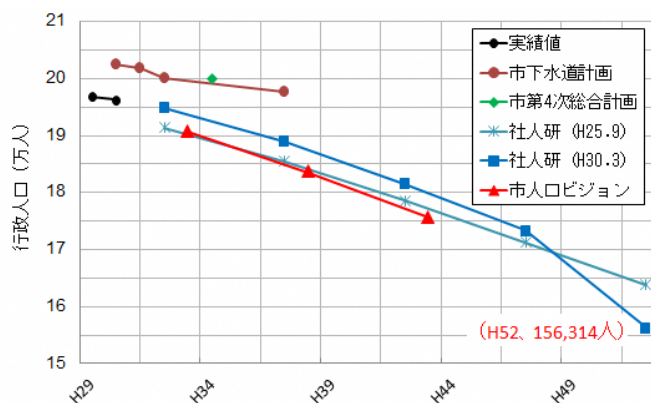
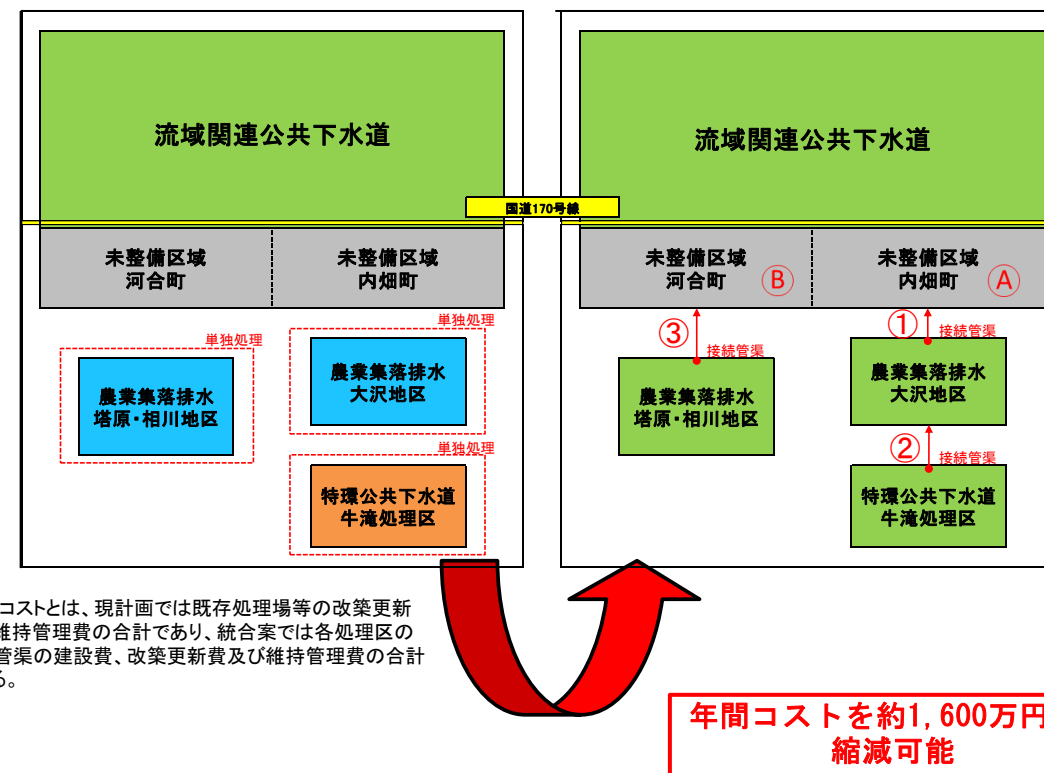


図2 将来人口の推移

既存処理区域の統合検討結果

牛滝処理区、大沢地区、塔原・相川地区は検討結果より、流域下水道に統合し、既存の処理場を廃止することで以下のように年間コストを削減できる。



※年間コストとは、現計画では既存処理場等の改築更新及び維持管理費の合計であり、統合案では各処理区の接続管渠の建設費、改築更新費及び維持管理費の合計である。

図3 既存処理区域の統合検討結果

特定環境保全公共下水道事業(牛滝処理区)、農業集落排水事業(塔原・相川地区、大沢地区)について、維持管理を行う処理場数が最少で、維持管理性、経済性も有利となる「**既存処理区すべてを流域関連公共下水道に接続する案**」が推奨される。

計画の短期（5年）整備（手続き含む）スケジュール

整備方針を平成30年度内に決定し、それ以降の平成31年から平成35年までの5年間で手続き・整備を含めたスケジュールを以下に示す。

項目	H30	H31	H32	H33	H34	H35
1. 整備方針の決定	[Red bar]					
2. 庁内協議		○				
3. 大阪府協議		○				
4. 全体計画の変更(岸和田市)		[Red bar]				
5. 都市計画決定の変更		[Red bar]				
6. 関係市協議調整		○				
7. 事業計画の変更(下水道法) 事業認可の変更(都市計画法)			[Red bar]			
8. 大沢地区との統合への主線管渠整備 (A)+①		[Red dashed bar]				
合計						接続●

図4 短期整備スケジュール

